



つながり

～瞳かがやき笑顔でつながる中央小～



2026（令和8）年
9月18日 配信 No.7

「令和8年度 全国学力・学習状況調査」の結果の概要

教務主任 仲川 和磨

日頃より、本校の教育活動にご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございます。

さて、今年度4月に実施されました全国学力・学習状況調査（6年生対象・国語および算数）の結果がまとまりましたので、ご報告申し上げます。本校では、この調査によって得られた成果と課題をしっかりと共有し、子どもたち一人一人の確かな学力育成と学習環境づくりに生かしてまいります。なお、同時に実施された「児童質問紙調査」では、学習や生活習慣、地域に対する意識など全73項目にわたり子どもたちの思いを捉えました。今回はその中から、特に本校の特徴があらわれている内容を抜粋してお知らせいたします。

保護者の皆様におかれましても、「まほうのかいわ」をご活用いただき、ぜひお子さまと一緒に振り返りながら学習方法を考え、お子さま自身の成長に気付く手助けをしていただければと思います。

※「まほうのかいわ」は本校ホームページに掲載しております。

	中央小学校の結果概要	今回の調査より〈○よさ ▲課題〉	○改善の方向
国語	◆言葉の特徴や使い方に 関する事項 ・全国平均を上回っています。	○話や文章の種類とその特徴について理解する。	全体的に高い理解を示している一方で、集めた情報を自分の言葉で再構成して書く「記述問題」や、学んだ漢字を正確に使いこなす「言語技能」においては、さらに深めていける余地が見られます。 今後は「自分の考えを文章でしっかりと表現する力」を重点的に育ててまいります。
	◆情報の扱い方に関する事項 ・全国平均を上回っています。	○情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使う。	
	◆話すこと・聞くこと ・全国平均を上回っています。	○理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考える。	
	◆書くこと ・全国平均を上回っています。	○筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考える。	
	◆読むこと ・全国平均を上回っています。	○目的に応じて、必要な情報を見付ける。	
＜他の問題に比べて正答率が低かった問題例＞ ●集めた情報から必要な部分を引用し、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する問題や、自分の経験と結び付けて考えをまとめて書く問題 ●文脈に合わせて学年別漢字を正しく書く問題			

	中央小学校の結果概要	今回の調査より〈○よさ ▲課題〉	○改善の方向
算 数	◆数と計算 ・全国平均を上回っています。 ◆図形 ・全国平均を上回っています。 ◆測定 ・全国平均を上回っています。 ◆変化と関係 ・全国平均を上回っています。 ◆データの活用 ・全国平均を上回っています。	○整数と小数の減法の計算をすることができる。 ○体積の意味について理解している。 ○示された情報を基に、数量の関係に着目して、条件に合う時間を求めることができる。 ○単位量当たりの大きさを求める除法の意味を理解し、混み具合を比較・判断できる。 ○二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができる。	基本計算や概念の理解が定着し、全問で全国平均を大きく上回る成果が見られた一方で、複雑な表やグラフから条件を整理して解決する問題や、考え方の理由・プロセスを言葉や図・式で論理的に説明する設問にさらなる伸び代が見られます。今後は、日常生活の場面における条件の読み解きに加え、単に答えを出すだけでなく「なぜそうなるのか」を筋道立てて説明・記述する指導をより深めてまいります。
	<他の問題に比べて正答率が低かった問題例> ●異分母の分数の大小を比較し、その理由を図や言葉を用いて説明する問題 ●図形の性質から求め方を言葉や式で記述する問題 ●複数の条件が合わさった二次元の表から、必要な情報を正しく読み取って答える問題 ●単位量あたりの大きさ（混み具合）を比べて判断する問題		

<「児童質問紙による学習状況調査」からみえる子どもの実態>

○家庭でのコミュニケーションと高い学習意欲

学校の勉強について家庭で日常的に話題にしている児童が49.6%（全国平均34.4%）と非常に高く、ご家庭での温かい声かけや関わりが、平日の1時間以上の学習習慣や子どもたちの前向きな学習意欲へとしっかり結びついています。ありがとうございます。

○ICT 機器を活用した発表・情報整理への高い自信

授業でのタブレット活用を通じて、プレゼンテーション作成ができる児童が55.9%（全国平均44.9%）、情報を整理できる児童が39.4%（全国平均32.8%）に達しており、単に調べるだけでなく情報をまとめて発信・整理するスキルの高まりが大きな自信となっています。

○学校の楽しさと多様な意見を受け入れる柔軟さ

「学校に行くのが楽しい」と答えた児童が52.0%（全国平均37.7%）、「自分と違う意見について考えるのが楽しい」も44.1%（全国平均31.9%）と全国を大きく上回り、お互いの考えや違いを認め合いながら楽しく主体的に学び合える温かい環境が築かれています。

▲学校図書館（図書室）の利用頻度と読書習慣の充実

学校図書館に「全く行かない」児童が47.2%（全国平均26.1%）と多く、平日読書時間も低調なため、学校での図書利用の促進とともに、思考力や表現力の基盤となる語彙力を育むためご家庭でも読書の習慣化へのお声がけをしていただけると嬉しいです。

▲休日の自律的な学習・探究習慣

平日に比べ休日に2時間以上勉強する児童の割合が15.7%（全国平均19.8%）や自分で学び方を

工夫して調べる姿勢に伸び代が見られるため、学校でも自分で目標を決めて取り組むための手立てや支援を工夫し、自律的に学ぶ力を育てまいります。

▲メディア利用時間（スマホ・動画・ゲーム等）のコントロール

平日にスマホやゲーム機で SNS や動画視聴を 1 時間以上行う児童が約 6 割に上り長時間の利用傾向が見られます。規則正しい生活習慣を守るためにも、ご家庭でも利用ルールについて定期的に話し合っていただけると幸いです。

今回の分析をもとに、学校での授業内容をよりよいものにし、学ぶことの意味、学習への取り組み方などについて伝えてきたいと思いますので、御家庭でもお子さんとお話していただけると幸いです。